

5. まちづくりの将来像

本町の都市計画やまちづくりに関する課題を踏まえて、まちづくりの将来像を定めます。

(1) まちづくりの方針

①都市づくりの基本的な理念

本町においてこれから都市づくりを進めていく際の基本的な姿勢として、次のような理念を大切にしていきます。

都市づくりの基本的な理念

基本理念 1 大子町のファンを増やすことで地域活性化に繋げる

- ・大子町の特徴である豊かな自然やそれにちなんだ観光資源を守り、活用することで、町の魅力を高め、定住人口に加えて交流人口などの関係人口を増やし、“みんなが元気な大子町”を目指します。

基本理念 2 地域の価値を高めることでみんなの幸福感を持続する

- ・都市基盤や生活基盤、経済活動、魅力などの地域の良さを維持・向上できる仕組みを整えることで、町民が住み続けられ、来訪者が何度も訪れるようにし、“みんなの満足が続く大子町”を目指します。

基本理念 3 多様な人の連携で相乗効果を生み出す

- ・町民、行政、団体・組織など町内の多様な主体が協働で取り組むことに加えて、町外の人材を活用することや町外の人々の需要も加味することで、いろいろな力を町の中に取り込み、“みんなで協力し合う大子町”を目指します

②将来都市像

本計画では、総合計画が掲げる将来像の実現を、都市計画やまちづくりの面で支援していくこととし、この将来都市像を踏襲することとします。

【将来都市像】

**豊かな資源をつむぎ 人々が豊かに暮らし、訪れるまち
奥久慈に輝く日本一幸せな DAIGO**

※第7次大子町総合計画(令和6年策定)より

③都市づくりの目標

今後の都市づくりは、次のような目標の達成を目指します。

目標 1 定住促進と関係人口増加につながる地域の魅力の創出

- ・大子町立地適正化計画に定める居住誘導区域やその周辺の市街地、拠点的な集落地などにおける町民の居住を支えるため、道路、公園、上水道、排水などの都市基盤施設の整備を行います。
- ・町民の通勤や通学をはじめ、都市間を移動する広域交通など、町内外の円滑な交流や連携を支えるため、国道や主要な県道などの幹線道路網や JR 水郡線の維持・整備を行います。
- ・学生や高齢者など誰もが不自由なく移動できるよう、JR 水郡線や路線バスなどの公共交通やデマンド交通など、多様な交通システムを維持します。
- ・町外からの来訪者が大子町の環境に満足するよう、地域の魅力を高めることで、来訪・再訪の促進やより幅広く多様な関係性の構築に繋がります。
- ・町民の通学や日常的な移動を支え、来訪者のサイクルツーリズム需要に応えるため、安全で円滑な自転車ネットワークの整備や通行環境の充実を図ります。
- ・町民と来訪者の交流促進によって地域の活力を高め、相乗効果によって新しい工夫が生まれるよう、双方の交流のための場と仕組みを整えます。

目標 2 大子らしい原風景の根幹である自然や里山環境を守る

- ・大子らしさの源である良好な自然環境を法制度によって保全するとともに、町民が多く暮らす市街地に近接するなど都市生活と関わり合いの強い自然資源については、公園や緑地などとして整備します。
- ・奥久慈の豊かな自然と寺社仏閣などの伝統的な歴史が調和する景観や、懐かしさを感じる中心市街地の街並み景観を保全します。
- ・観光・レクリエーション振興の施策と連携し、レクリエーションや交流のための拠点の整備、散策やサイクリングなどのルートの設定や整備、レジャー面にも配慮した親水性のある河川の整備など、余暇とまちづくりの両面からまちの魅力度を高めます。
- ・豊かな自然環境を育むための水質向上や生物多様性に役立てるため、污水排水処理対策や河川的环境整備を進めます。
- ・農林漁業の活性化を支援するため、開発許可制度や林地開発許可制度などを活用し、優良農地や山林を保全します。

目標 3 集約性や集積性を高め利便性を向上する

- ・大子町立地適正化計画に定める都市機能誘導区域を中心として、市街地等に居住する町民の日常生活に必要な商業、医療、金融などの生活利便施設（都市機能誘導施設など）の維持や誘導を図ります。
- ・教育や子育て分野、福祉や医療分野などの相互の関連性のある施設については、できるだけ集積や一体化を図ることで、ワンストップサービスなど町民の利便性を高めます。
- ・居住誘導区域やその周辺の市街地にある空き地や空き家などの既存ストックをできるだけ有効に活用することで、市街地の活力を維持する観点から、人口や都市機能の密度を維持します。
- ・町内の各地区の居住者が JR 常陸大子駅周辺の市街地を訪れ、生活利便施設を利用しやすいように JR 水郡線や路線バスなどの公共交通やデマンド交通など、多様な交通システムを維持します。

目標 4 持続可能で安全と安心のあるまちづくりを進める

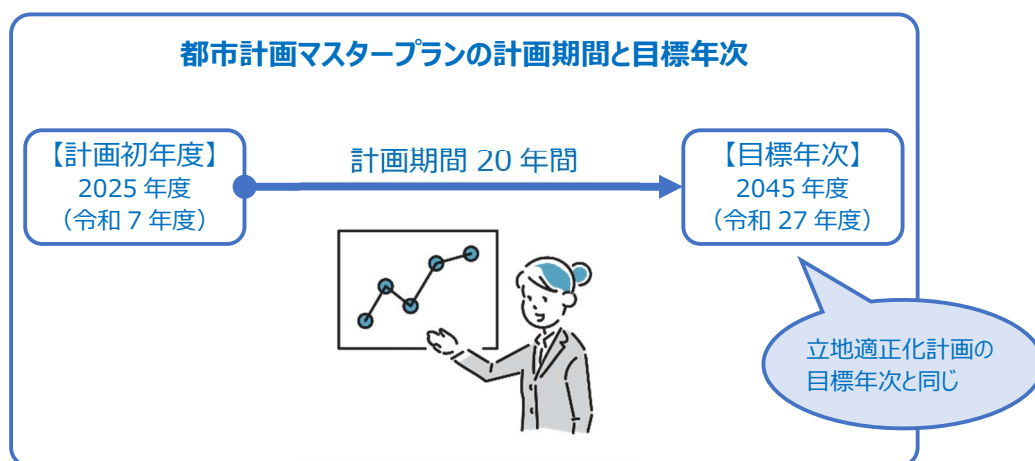
- ・本町の地勢面の特徴は、山地や丘陵地に囲まれ、多くの中小河川があるなど多様性があることから、災害リスクも各地区の特性毎に水害や土砂災害、さらには複合災害など多様であるため、地区ごとの災害リスクに応じて、ハード・ソフト多面的な対策を講じます。
- ・一般的に市街地などにおいて人口が減少すると、人の目が届きにくくなることや空き家や荒地が増えることで生じやすい犯罪や災害などのリスクがあるとされていることから、市街地の安全安心を確保する観点から、人口減少対策に加えて空き家や空き地の利活用を進めます。
- ・商業、医療、金融などの日常的な生活サービスを無理なく受けられることで町民が安心して居住を続けられる生活面での安心を確保するため、都市機能誘導区域が定められた JR 常陸大子駅周辺などの市街地において都市機能と移動手段を維持します。
- ・居住誘導区域やその周辺の市街地などの人口集積地においては、徒歩や自転車などの身近で手軽な移動手段でも日常生活が営めるよう、歩道、路地、散策路などの整備を進め、歩行環境の向上を図ります。
- ・本町では高齢化が進んでいることや多くの来訪者が訪れることから、不特定かつ多くの人が利用する主要な公共公益施設、さらにこれらの施設間の移動経路のバリアフリー環境の向上を図ります。
- ・町内会や自治会などの町民の居住地近隣での繋がり、町内で様々な活動に取り組む団体の繋がりなど、本町内にある既存の様々な組織を生かした協働によって安心を高めるほか、さらに本町に関わりのある町外の組織や人材も含めた多様な人との協働など、まちづくりの担い手や協力者などの裾野を広げます。
- ・今後は、人口減少や経済活動の衰退に合わせて行政収入の減少が進むとともに、インフラや公共施設などの老朽化に伴って行政支出が増加すると予想されることから、利用者の利便性を一定水準で維持しつつ、無理無駄を減らして効率的な都市運営を行います。

(2) まちづくりの目標

①目標年次

都市計画マスタープランは、長期的な視点から策定することが重要です。このため、一般的にはおおむね 20 年後を目標時期として将来像を定めることとされています。

本計画においては、策定済みの立地適正化計画との整合を図る観点（計画目標年次：2045 年度（令和 27 年度））や、国勢調査等の統計調査が実施される節目の年次などと整合を図る観点から、目標年次を 2045 年度(令和 27 年度)と設定します。



②基準人口規模

本町の人口は減少傾向を続けており、2020 年（令和 2 年）国勢調査では、15,736 人であり、これは昭和 50 年のほぼ半分の水準です。

また、将来の推計人口については、大子町総合戦略人口ビジョンにおいて、2040 年度（令和 22 年度）の計画目標年次において 10,298 人と想定しているほか、これ以降の年次についても推計値を示しており、本計画の目標年次である 2045 年度（令和 27 年度）には、9,331 人の目標値を示しています。

本計画では、行政計画全体で整合を図るため、この人口ビジョンの推計結果を踏まえて、まちづくりの基準とする人口規模を次のとおりとし、今後の人口減少社会を踏まえたまちづくりを進めていくこととします。

大子町の将来の基準人口規模

9,331 人（2045 年度（令和 27 年度））



(3) 本町全体の将来都市構造

令和 6 年 3 月に策定した「太子町立地適正化計画」における、今後の集約と連携のまちづくりに向けた骨格構造を踏襲し、本計画では町全体の都市構造を次のとおりとします。

行政区域全体の都市構造

■土地利用ゾーニングの配置

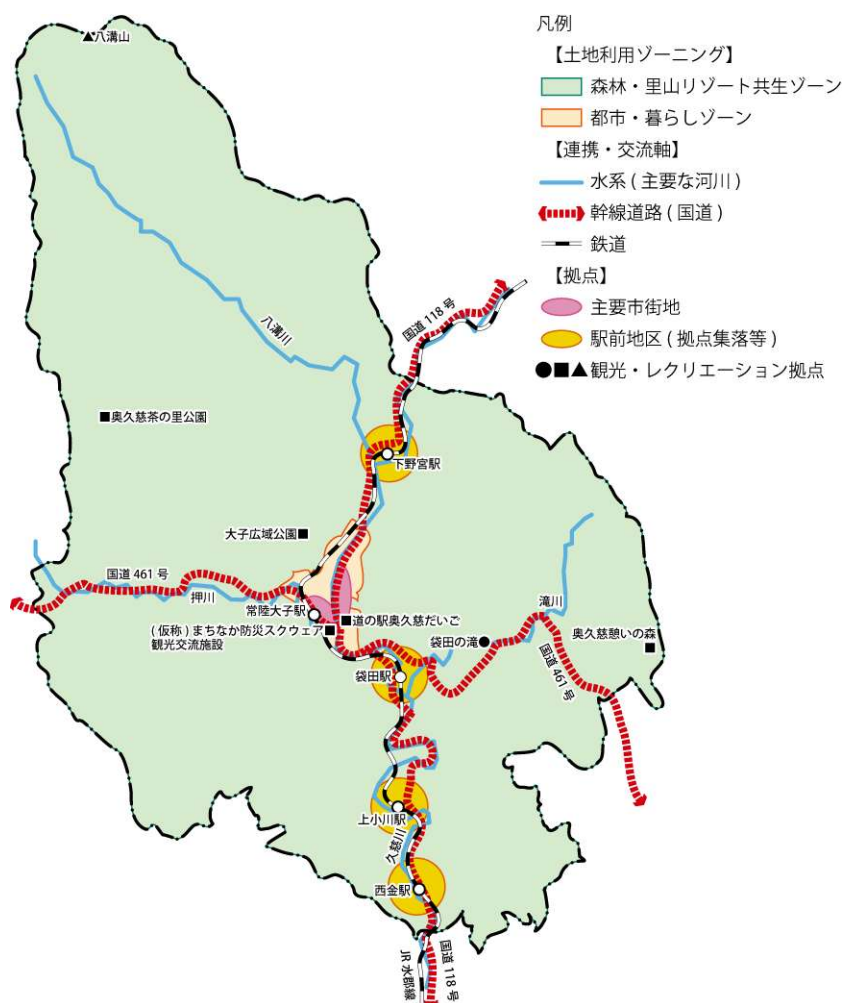
- ・行政区域全体：山林や河川等の非常に良好な自然環境を保全しながら里山暮らしを営む
- ・都市計画区域：交通利便性や都市機能の集積による都市的利便性を生かした暮らしを営む

■連携・交流軸の配置

- ・水系：自然環境軸
- ・国道：生活・産業・レクリエーション等の多様な移動と交流を支える交通軸
- ・鉄道：生活・レクリエーション等の多様な移動と交流を支える交通軸
- ・ハイキング/サイクリングコース/レクリ施設アクセス等：観光・レクリエーション交流を支えるツーリズム軸
- ・構想路線：本町と周辺都市群や他県とを連絡する高規格な交通軸(ルート未定のため図示なし)

■拠点の配置

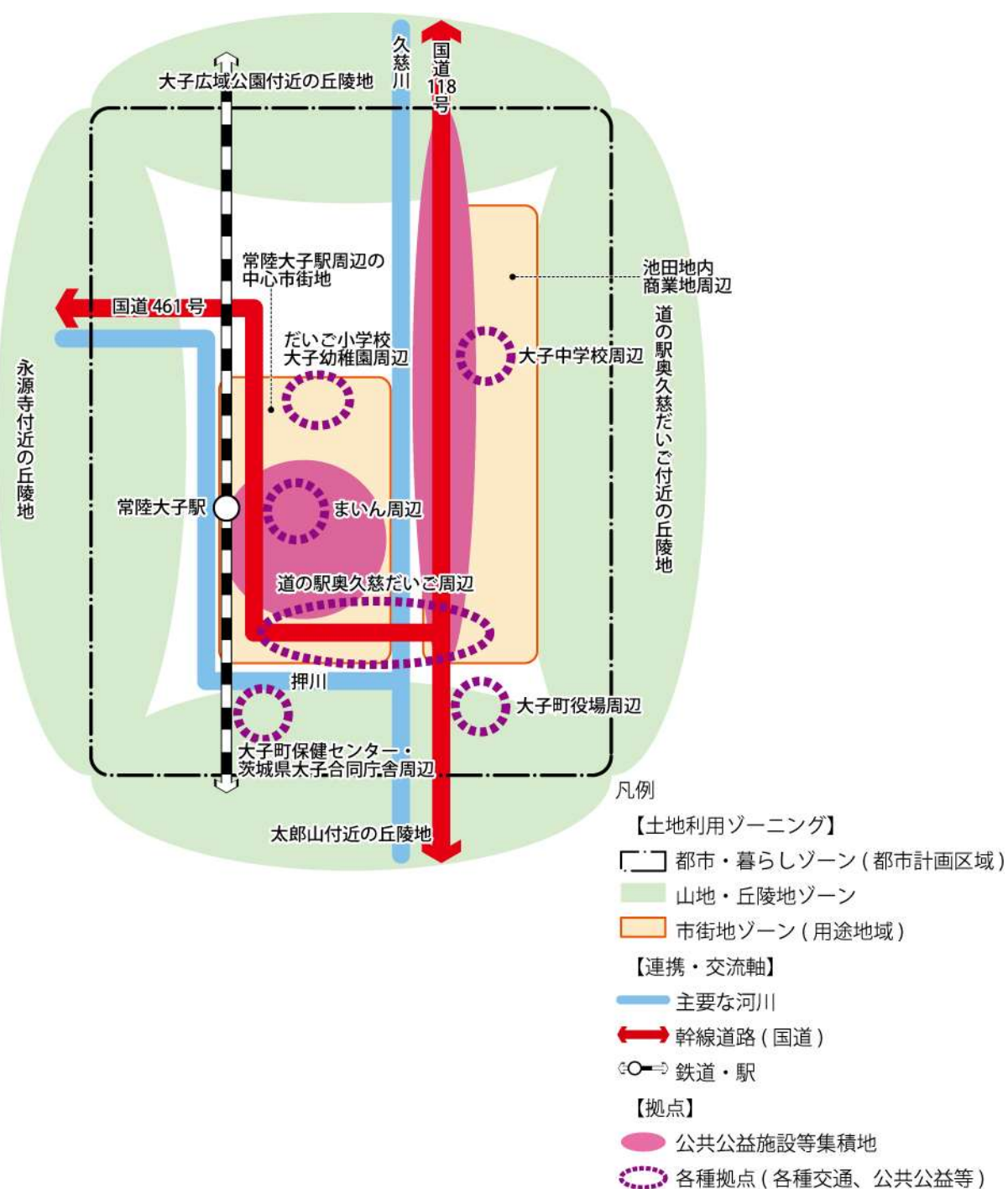
- ・JR 常陸太子駅周辺：誰もが訪れやすい公共交通結節点を生かして多様な都市機能を配置する場
- ・国道 118 号沿道：自動車交通の利便性に対応した店舗等の集積地や拠点集落等
- ・各駅前地区：鉄道駅の利便性に対応した拠点集落等
- ・観光・レクリエーション拠点：地域の誇りであり来訪者を楽しませる交流拠点



(4) 都市計画区域の将来都市構造

都市計画やまちづくりの主な対象区域である都市計画区域は、本町においては行政区域のごく一部のみに指定されています。

本町全体の都市構造と同様、立地適正化計画を踏襲し、本計画では都市計画区域の都市構造を次のとおりとします。

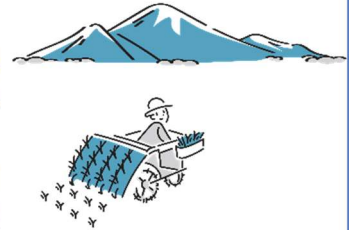


ゾーニング・各種区域の配置

■山地・丘陵地ゾーン

盆地状の市街地を取り囲む東西南北それぞれの山地や丘陵地は、本町の都市としての地理的骨格構造や景観構成を形成しており、原風景としての象徴的な要素であるため、自然環境と景観のゾーンとして保全を図ります。

加えて、これらの山地や丘陵地と連続する田園資源である市街地周辺の久慈川や押川沿いの平地にある水田や畑、丘陵地や斜面地の果樹園などの優良農地を保全します。



■JR 常陸大子駅周辺中心市街地ゾーン

JR 常陸大子駅周辺で生活利便施設や公共交通が充実したゾーンです。

快適に歩いて暮らせる範囲に町民の日常生活に必要な都市機能誘導施設を中心に居住機能を含めた立地を促進し、複数の公共交通の結節点である利便性も生かして、誰もが無理なく暮らし続けられるユニバーサルデザイン型のまちづくりを目指します。



■池田地内商業地域周辺ゾーン

国道 118 号沿道で商業やサービス施設等が充実したゾーンです。

大規模な駐車場を備えた郊外型の商業・サービス施設などの都市機能誘導施設を中心に居住機能も含めた立地を促進し、自動車交通の利便性を生かして新たに宅地化を図るまちづくりを目指します。



軸の配置

■自然と交流の南北軸

久慈川と国道 118 号、JR 水郡線を基軸とした主に南北方向の流れを処理する骨格軸です。

町民の主な通勤や通学先である水戸方面と連絡する軸として、町民の日常的な都市間の移動を支えます。

また、町内各所と市街地などの都市内での移動や、観光・レクリエーションなどの来訪者の移動を担います。



■自然と交流の東西軸

押川と国道 461 号を基軸とした主に東西方向の流れを処理する骨格軸です。

町内各所と市街地などの都市内での移動や、観光・レクリエーションなどの来訪者の移動を担います。

また、本県北西部の山地や丘陵地を巡る大規模な自転車道である奥久慈里山ヒルクライムルートの複数のコースに接続することや、袋田の滝、八溝山、大子広域公園、奥久慈憩いの森、観光果樹園などに繋がるなど、観光・レクリエーション系の役割を担う軸でもあります。



拠点の配置

■公共交通の拠点

JR 常陸大子駅をターミナルとした鉄道とバス、デマンド交通等の公共交通を中心とした結節点であり、若者や高齢者を含めて多様な人が無理なく移動するための拠点です。

本町を代表する玄関口のひとつでもあるため、多様な人の交流による賑わいの場づくりを目指します。



■自動車交通の拠点

JR 常陸大子駅や道の駅奥久慈だいを拠点とした自動車交通等を中心とした結節点であり、人や物資などが円滑・快適に移動する際の拠点です。

道の駅は、道路利用者などに対して、休憩、情報発信、地域連携などの機能を提供するほか、大規模自然災害発生時の防災拠点の役割を担う「防災道の駅」として、機能の充実を目指します。



■公共公益施設等の拠点

行政サービス施設（大子町役場、茨城県大子合同庁舎、保健センター）、教育・子育て施設（小中学校、幼稚園）、文化・交流施設（大子町文化福祉会館「まいん」）など、町民サービスの拠点であるとともに来訪者も含めた多様な人の交流の場となっている施設もあります。

複数の施設が集積する場所は、施設集積型の拠点や小規模市街地として、計画的に都市機能誘導施設などの立地・集積を促進します。

